

能登半島地震における活動

当院は災害拠点病院であり、リハビリテーション部門にも日本DMAT隊員が3名（Dr1名、ロジスティクス要員2名）在籍している。2024年1月に発生した能登半島地震において当リハビリテーション部門のロジスティクス要員1名がDMATとして災害支援活動に参加したため報告する。

※DMATとは、災害派遣医療チームの略称
※ロジスティクスとは、医療以外の全てを行う役割

現場での活動



今回の Mission !

能登半島から金沢周辺の病院や施設へ搬送

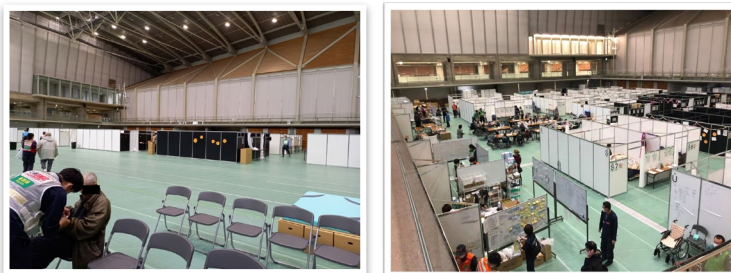
1日目 Medical Check Center



能登半島からの搬送先を選定

搬送までの時間
モニタリング

2-4日目 一時待機ステーション



施設利用者の受け入れの需要が高く

80床拡充

災害支援における理学療法士の役割

● ロジスティクス（DMAT）の活動

ロジスティクスの活動内容は受付業務や多機関と連絡手段の確立、利用者の転倒リスクの情報収集や共有など多岐に渡りました。



受付業務



多職種連携



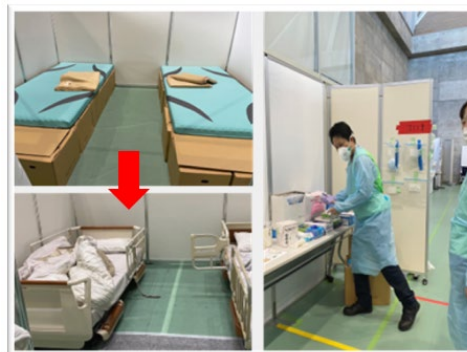
書類作成



患者共有

● JRATとの連携

JRAT (Japan disaster Rehabilitation Assistance Team) ベッド柵や歩行補助具などの環境調整を実施しました。DMAT内のPTも連携し、転倒リスクの評価を実施しました。



環境調整

● 病院内での後方支援

当院、病院内でも出勤していない隊員が後方支援として活動しました。



業務調整



情報管理